



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第27号

発行日：平成19年12月15日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷(株)

スギの木の災難



太く立派なスギの幹。よく見ると、その樹皮が異様にささくれ立っています。この無数のささくれは、クマが、手がかりの少ないスギの木に登ろうと、執拗にトライした生々しい爪あとです。スギにとってはとんだ災難ですが、いったいなぜ、クマはそんなに必死にスギの木に登ろうとしたのでしょうか。その答えは、次のページで。

けものたちの食事のあと

学芸員 石須 秀知

魚津市を含む多くの地域では、2004年と2006年にクマ(ツキノワグマ)が異常に人里に出没し、大きな問題となりました。今年、2007年は、春にクマの出没情報が比較的多かったものの、秋はほとんど問題になっていません。

野外でクマに出会うのは、できれば避けたいことです。その一方、野生動物を自分の目で見たい、と思う人も多いと思います。魚津市で確実に生息している野生の哺乳類は、クマ、カモシカ、サル、キツネ、タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ノウサギ、リス、ネズミ類、モグラ類、コウモリ類などで、それに近年はハクビシンやイノシシが侵入してきています。魚津市は山林が多く、環境に恵まれているため、動物の生息数は少なくないと思われます。

とはいえ、実際に野生動物の生態を観察するのは、なかなか困難です。森の中など、動物たちの生活の場へわれわれ人間が入っていくと、たいていは動物たちの方が先に察知して姿を隠してしまいます。また、夜行性で昼間はほとんど出歩かない動物もいます。市内の山間部ではサルやカモシカには比較的好く出会いますが、一般的には、野外で哺乳動物の姿を直接見る機会は、あまり多くありません。

しかし、動物の姿は見えなくても、足跡や爪あと、食事の跡、糞など、彼らが生活している痕跡はいろいろな形で残っています。今回はそれらの中から、動物たちが食事をした跡を少し紹介してみたいと思います。

表紙写真のクマの爪あとは、それだけではなぜクマが懸命に木に登ろうとしたのか、その理由を想像するのはむずかしいと思います。そこで、同じスギの木を裏側から見てみましょう(写真①)。ここにも爪あとが残り、上の方では

樹皮がはぎ取られ、そこに何かの穴が見えます。クマの目当ては、どうやらこの穴(写真②)のようで、よく見ると、穴の周囲をかじって広げようとした跡もあります。



写真① 爪跡と上方の穴



写真② これは何の穴?

この穴は、スギの幹の中の空洞に作られたミツバチの巣の出入り口です。蜂蜜はクマの大好物。必死に登った理由も分かりますが、この小さな穴で、努力に見合うだけの蜂蜜が手に入ったでしょうか。てこずる間に、鼻づらを相当刺

されたと思います。撮影時も働き蜂が出入りしていたので、ミツバチにしてみれば被害が少なく済んだのかもしれませんが。

つぎの写真③は、知っている人も多いかもしれませんが、ミズキの枝が折られて、木の上に積み重ねられています。



写真③ 枝を折って積み重ねたのは何者？

一見、大きな鳥の巣のように見えますが、これもクマの食事跡です。木に登ったクマが枝を折り取り、果実を食べて積み重ねたもので、木の上に棚ようになるので「クマ棚」と呼ばれます。今年はミズキの実が豊作だったのか、あちらこちらでミズキに作られたクマ棚を見かけました。

つづいて写真④は、シャガという草の葉が食べられた跡です。食べたのはどんな動物でしょうか。ポイントは、葉の断面が引きちぎられたようになっているところです。また、よく見ると、枯草の茎の先に、灰色の動物の毛がついています。ほかの手がかりとして、この写真には写っていませんが、周囲には2本のひづめが並んだ足跡が残されていました。



写真④ シャガの葉を食べたのは？

この食べ跡と毛の主は、カモシカです。カモシカはウシの仲間で、上あごに前歯がなく、植物を引きちぎるようにして食べるためこのような形になります。

最後の写真⑤は、人間が食べるエビフライ…ではありません。アカマツの林で拾ったもので、やはり動物の食事の跡です。



写真⑤ エビフライ？

これは、リスが松ぼっくりの鱗片をかじりつつ種を食べた跡です。エビフライにそっくりなので、お皿に盛り付けてみました。

これら動物たちが残した食事の跡や、その他さまざまな痕跡は、少し注意を払えば、いろいろなところで見ることができます。ハイキングや山歩きで何かの痕跡を見つけたら、動物たちの目線で、その目的や動きを想像してみてください。動物の姿は見られなくても、その気持ちを理解することができるかもしれません。

シリーズ

埋没林の仲間たち ②⑥

サンショウ・イヌザンショウ・カラスザンショウ（ミカン科）

今日、多種多様な香辛料が世界から輸入されていますが、サンショウは、日本に自生する数少ない香辛料として、古くから用いられてきました。その香りは人により好き嫌いがありますが、魚料理などの臭みをとるため、生の葉や乾燥した果皮が使われます。また、その幹は、すりこ木に使用されます。山に自生するほか、庭などにも植えられ、木の高さは3mほどになります。サンショウに近い仲間に、イヌザンショウやカラスザンショウなどがあります。



サンショウの果実



トゲが多いカラスザンショウの若木

イヌザンショウは、サンショウによく似ていますが、香りはよくありません。また、茎のトゲは1本ずつ交互に出るので、2本ずつ対になるサンショウと区別できます。カラスザンショウは前の2種より大きな木になり、トゲがたくさんあります。

* * *

現在の魚津市内では3種とも丘陵地帯を中心に生育しています。

魚津埋没林では、平成元年の発掘調査でこれら3種の種実が出土しています。

お知らせ

●平成19年度後期の行事予定

☆企画展示

魚津の美しい自然と祭写真展 — 11月20日(火)～12月27日(木)

魚津ナチュラルギャラリー⑧ — 1月2日(水)～4月30日(水)

☆ふれあい学習会

冬の蜃気楼ウォッチング — 2月17日(日)

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始（4月～11月無休）
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049

ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp